

参加者の皆様へ①

- ✓ 記録や取材のため、会議の様子を撮影、録音します。
- ✓ 動画の一部は、後日、日野市公式YouTubeで配信します。
- ✓ 写真の一部は広報に使用する可能性があります。
- ✓ 写りたくない方は、お近くの事務局までお声掛けください。

参加者の皆様へ②

- ✓ 参加者が写真を撮影される場合は、他の参加者の個人を特定できない写真となるようにご配慮をお願いします。
- ✓ 十分ご配慮いただければ、その写真をSNSへ投稿していただいても構いません。
- ✓ 参加者による動画の撮影、録音はご遠慮ください。

傍聴者の皆様へ①

- ✓ 開会前、会議中、閉会後に関わらず、予め定められたエリアでの傍聴をお願いします。
- ✓ 会議中は、発言、私語、拍手等の意思表示を伴う行為は行わないようにお願いします。

傍聴者の皆様へ②

- ✓ 記録や取材のための撮影に、傍聴者も写り込んでしまう場合があります。
- ✓ 写りたくない方は、お近くの事務局までお声掛けください。
- ✓ 傍聴者による撮影や録音は、報道・記録など主催者の許可がある場合以外にご遠慮ください。

会場の皆様全員へ

- ✓ お手洗いは、廊下に出て右手側に進み、エレベーターの手前にあります。込み合っている場合は下の階のお手洗いをご利用ください。
- ✓ 地震、火事等の災害時には、日野市職員の指示に従い、落ち着いて行動してください。

日野市気候市民会議（第5回）

まとめ



令和5年12月10日

開 会

全5回と本日の流れ

全5回の流れ

講義・情報提供

グループワーク

第1回
(8月)

講義：アドバイザー2名

感想と疑問点の共有

第2回
(9月)

情報提供：モノに関わる脱炭素

モノに関わる取り組み

第3回
(10月)

情報提供：モビリティに関わる脱炭素

モビリティに関わる取り組み

第4回
(11月)

情報提供：エネルギーに関わる脱炭素

エネルギーに関わる取り組み

資料確認
投票

提言書（素案）の確認、修正する必要がある取り組みを把握する投票

第5回
(12月)

情報提供「カーボンニュートラルを急げ
気候転換点を超える前に」

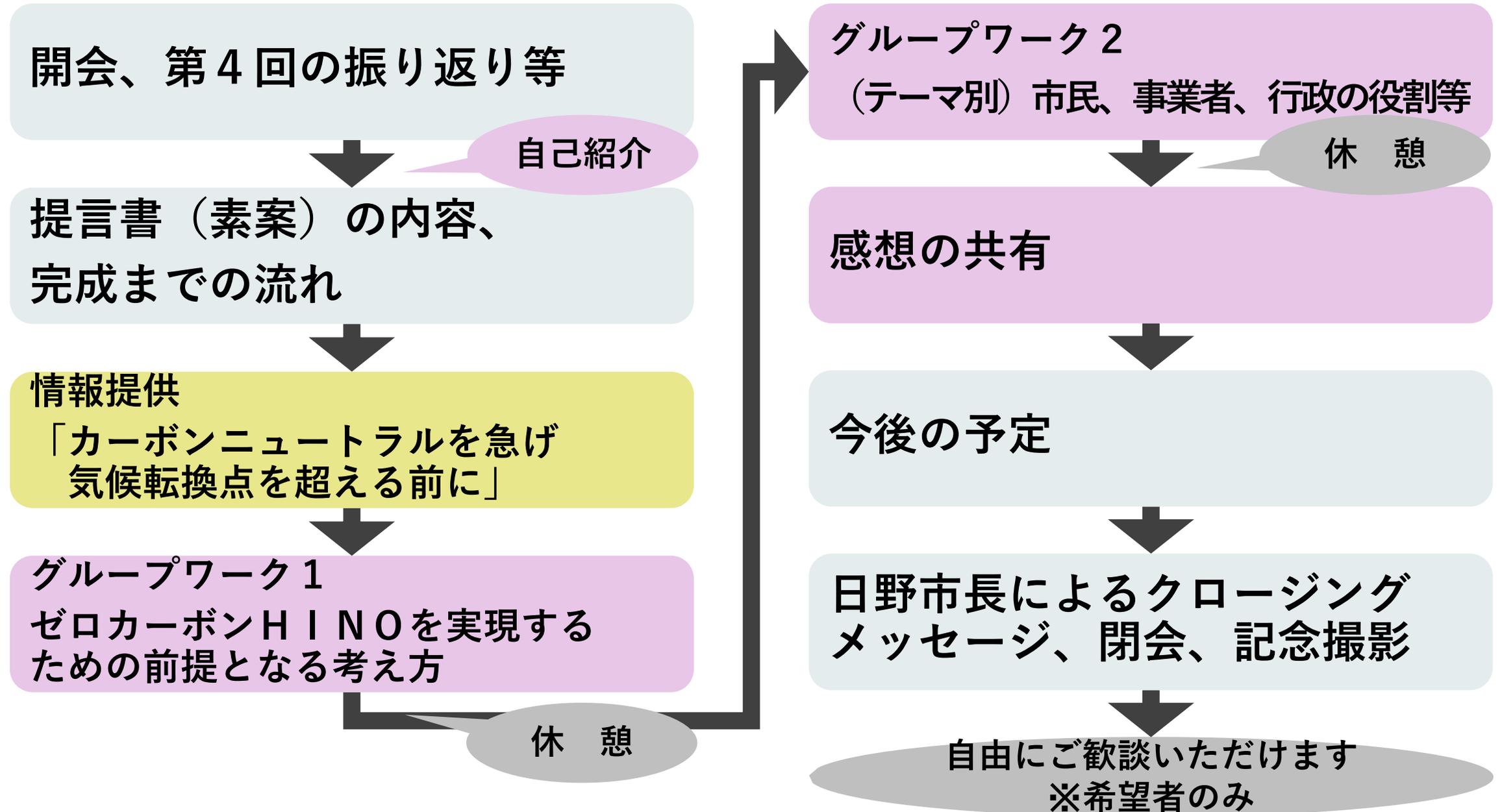
市民、事業者、行政の役割等

資料確認

提言書（案）の確認、意見の募集（参加者のみ）

テーマ別の
取り組みの検討

本日の流れ



講師等への質問と回答

講師等への質問と回答（一部紹介）

（質問）太陽光パネルを破棄する際リサイクル出来ず環境に負荷がかかるという問題がある中で、東京都は新築住宅に太陽光パネルの義務化を推奨していて、数十年は良くてもその後の環境問題が気になりました。問題解決の為に何か研究されているのか、持続可能な社会という点で太陽光パネルは本当に良いものなのかという事が気になりました。

⇒（回答抜粋）可能な限り環境負荷の少ない採掘やリサイクル技術とするための検討が進められています。

東京大学の前教授が太陽光発電に関わる様々な疑問について、科学的根拠に基づく回答をまとめておりますので、ご参照ください。<https://sites.google.com/view/pv-factcheck/>

（質問）CO₂どうやったら減らせるかービジネスを促すような補助金の出し方を考えようーが具体的に分からなかった。ラストの講評でも触れていましたけれど、なんとなくなので。

⇒（回答抜粋）例えば断熱改修の家庭向けシミュレーションを実施するビジネスや、高断熱住宅のモデルハウスを設置するなど、間接的ではあるものの脱炭素対策行動の実施に人々の気持ちを向けるビジネスを対象に、行政が補助金等（税率軽減でもよい）の施策を実施すれば、予算額に制限されず高い波及効果が期待されます。

第4回アンケートの結果

第4回アンケートの結果（一部紹介）

多様な意見

- 今回も沢山の考えが出ておもしろかったです。参考になりました。
- 電気・水道料金に対する敏感さなど、年代によって大きく違うと思った。
- 10人12色で面白かった。

効果の見える化、情報公開の重要性

- 省エネに関して、個人ができることは多くありますが、その前提として企業や自治体によって情報がもっと共有され、それを私たちが取捨選択していく構図を生み出すことが今後重要になっていくのだとグループワークを通して発見することができました。

その他

- 気候問題は、既に多くの場で議論されているので、無難にまとめるだけでなく、日野市民ならではの斬新な意見が盛り込まれると良いなと思う。

グループ内での自己紹介

グループ内での自己紹介

1人1分程度で自己紹介しましょう。

- ✓ 呼ばれたい名前
- ✓ この会議に参加して、何か変わったことは？

終了時刻
13:35

提言書（素案）の内容、 完成までの流れ

提言書（素案）の内容

1 ゼロカーボンHINOを実現するための前提となる考え方

第1回の成果（一部抜粋）

- ・ 大変な時代に生きている。
- ・ 教育や政治においてもっと取り上げる必要がある。社会全体が変わっていく必要がある。
- ・ 経済成長と脱炭素化の矛盾に向き合う必要がある。一方で、経済成長により脱炭素化の技術レベルが上がるという側面もある。
- ・ 日野市、東京都、国、世界のそれぞれのレベルで考え、すべての人が同じ方向を向いていけるようにしていく必要がある。
- ・ 市民、事業者、行政が一体となって取り組む必要がある。
- ・ 現時点でも取り組めることがたくさんある。取り組むことで他の分野に与える良い影響もたくさんある。



提言書（素案）の内容

- (1) 環境問題を教育や政治で取り上げる**
- (2) 社会の「大転換」を起こす**
- (3) 現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す**

提言書（素案）の内容

1 ゼロカーボンHINOを実現するための前提となる考え方

第2回～第4回の成果（一部抜粋）

グループ名	模造紙の位置	付箋の色	手書きの内容
A	啓発方法	市民	正しい理解
B	啓発方法	市民	意識の浸透(時間がかかる)
C	啓発方法	市民	子供の時からもっとわかりやすく勉強すべき
F	啓発方法	市民	親から子へ(大人の影響が大きい)
F	啓発方法	市民	親の価値観は子供に受け継がれる
・	・		・
・	・		・
D	その他	事業者	社会課題×ビジネス
・	・		・
・	・		・

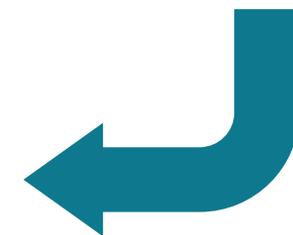
取り組み

環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する

環境問題について家庭内で子どもに教える

環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する

提言 1 環境問題を社会に浸透させ、一丸となってこの問題に取り組む



提言書（素案）の内容

2 ゼロカーボンHINOを実現するための取り組み（テーマ別）

第2回～第4回の成果（一部抜粋）

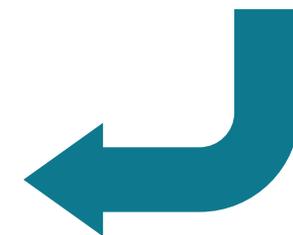
グループ名	模造紙の位置	付箋の色	手書きの内容
A	生産と消費	市民	エコで経済的なモノを積極的に取り入れる
A	生産と消費	市民	環境負荷の少ない物の購入
A	生産と消費	市民	原材料にこだわる
A	生産と消費	市民	原材料の産地を知る
A	生産と消費	市民	洗剤系の使い方に配慮
B	生産と消費	市民	服の素材に注目(リネン・コットン土にかえる)
・	・		・
・	・		・
A	生産と消費	事業者	エシカル商品でヒットを狙う！
A	生産と消費	事業者	安さの追求ではない競争
・	・		・
・	・		・

取り組み

環境に配慮した素材（自然由来の素材、脱プラスチックの素材など）、環境に配慮した方法で作られたモノを選択する

環境に配慮したモノをつくり、売り上げに結び付ける

提言2 環境に配慮したモノを普及させる



提言書（素案）の内容

2 ゼロカーボンHINOを実現するための取り組み（テーマ別）

提言2 環境に配慮したモノを普及させる

市民の取り組み

- ①環境に配慮した素材（自然由来の素材、脱プラスチックの素材など）、環境に配慮した方法で作られたモノを選択する
- ②プラスチックが使用されていないモノを選択する（プラスチック容器ではなく紙容器に入ったモノなど）
- ③プラスチックが使用されているモノはバイオマスプラスチックなどに置き換わっているモノを選択する
- ④環境認証マークについて調べる、環境認証マークがついたモノを選択する
- ⑤環境に配慮したモノをつくる事業者を応援する、積極的に事業者に意見、提案をあげる

事業者の取り組み

- ①環境に配慮したモノをつくり、売りに上げに結び付ける
- ②環境配慮にかかる費用（素材の産地に適正な費用を支払うことを含む）を事業者が負担し、価格に転嫁する（消費者にも負担してもらう）
- ③素材の仕入れから販売までの情報（二酸化炭素排出量など）を透明化し、一連の環境配慮に責任を持つ
- ④利益最優先のモノづくりをやめる
- ⑤環境に配慮した素材を開発する
- ⑥プラスチックが使用されていないモノをつくる（プラスチック容器ではなく紙容器に入ったモノなど）
- ⑦環境認証を取得する、環境認証マークについて周知、アピールする

行政の取り組み

- ①環境に配慮したモノをつくる事業者を支援する（助成・減税を含む）
- ②環境に配慮したモノをつくる事業者の表彰制度をつくる
- ③環境に配慮したモノをつくる事業者に発注する
- ④モノをつくる際の環境情報（二酸化炭素の排出量など）を表示させる
- ⑤モノをつくる際の二酸化炭素の排出量に応じた課税をする
- ⑥環境に関する新技術の開発を支援する（助成・減税を含む）
- ⑦環境に関する規制、罰則を厳しくする（モノをつくる際の二酸化炭素排出量の基準を設定するなど）
- ⑧環境認証マークについて周知、啓発する

提言書（素案）の内容

2 ゼロカーボンHINOを実現するための取り組み（テーマ別）

モノに関する取り組み ⇒ 取り組み総数：123

生産と消費

提言2 環境に配慮したモノを普及させる

提言3 環境に配慮した食を普及させる

提言4 モノの生産、消費を減らす

提言5 地産地消を普及させる

販売方法

提言6 環境に配慮した販売方法を普及させる

廃棄、再利用、資源循環

提言7 モノの生産、消費を減らす（再掲）

提言8 食品ロスを減らす

提言9 リユース、リサイクルを進める

提言10 街なかのごみを減らす

（海洋プラスチックを減らす）

提言11 ゴミの収集、処理の過程で環境に配慮する

提言書（素案）の内容

2 ゼロカーボンHINOを実現するための取り組み（テーマ別）

モビリティに関する取り組み ⇒ 取り組み総数：125

自家用車、社有車、公有車

提言12 自動車の台数を減らす、走行距離を減らす

提言13 環境に配慮した自動車を普及させる

提言14 環境に配慮した運転を普及させる

公共交通機関等

提言15 環境に配慮した公共交通機関を使いやすくする

（自家用車や飛行機に依存しない社会）

提言16 新しいタイプの相乗り型交通機関を普及させる

（高齢者も移動しやすい社会）

街づくり

提言17 自動車の流れをスムーズにする

提言18 遠くに出かけなくても生活できる魅力的な街をつくる

提言19 地域ごとの特性を踏まえながら、だれもが移動しやすい街をつくる

徒歩、自転車

提言20 徒歩、自転車での移動を増やす
（自家用車に依存しない社会）

物流

提言21 モノを運ぶ距離や量を減らす

提言22 地産地消を普及させる（再掲）

提言23 環境に配慮した方法でモノを運ぶ

提言書（素案）の内容

2 ゼロカーボンHINOを実現するための取り組み（テーマ別）

エネルギーに関する取り組み ⇒ 取り組み総数：107

市民の省エネ

- 提言24 断熱性の高い省エネ住宅を普及させる
- 提言25 省エネ家電、省エネグッズを普及させる
- 提言26 省エネ型ライフスタイルを普及させる

事業者の省エネ

- 提言27 省エネ機器を普及させる
- 提言28 省エネ型ビジネススタイルを普及させる

街の省エネ

- 提言29 エネルギー消費が少ない街をつくる
- 提言30 熱をため込まない街、気温が上がっても快適に過ごせる街をつくる

エネルギー転換

- 提言31 太陽光発電システムを普及させる
- 提言32 市内の再生可能エネルギーの利用を進める
- 提言33 市外の再生可能エネルギーの利用を進める
- 提言34 電力のピークカット、ピークシフトを進める
- 提言35 熱利用の脱炭素化を進める
- 提言36 未利用エネルギーを活用する、新エネルギーを開発する

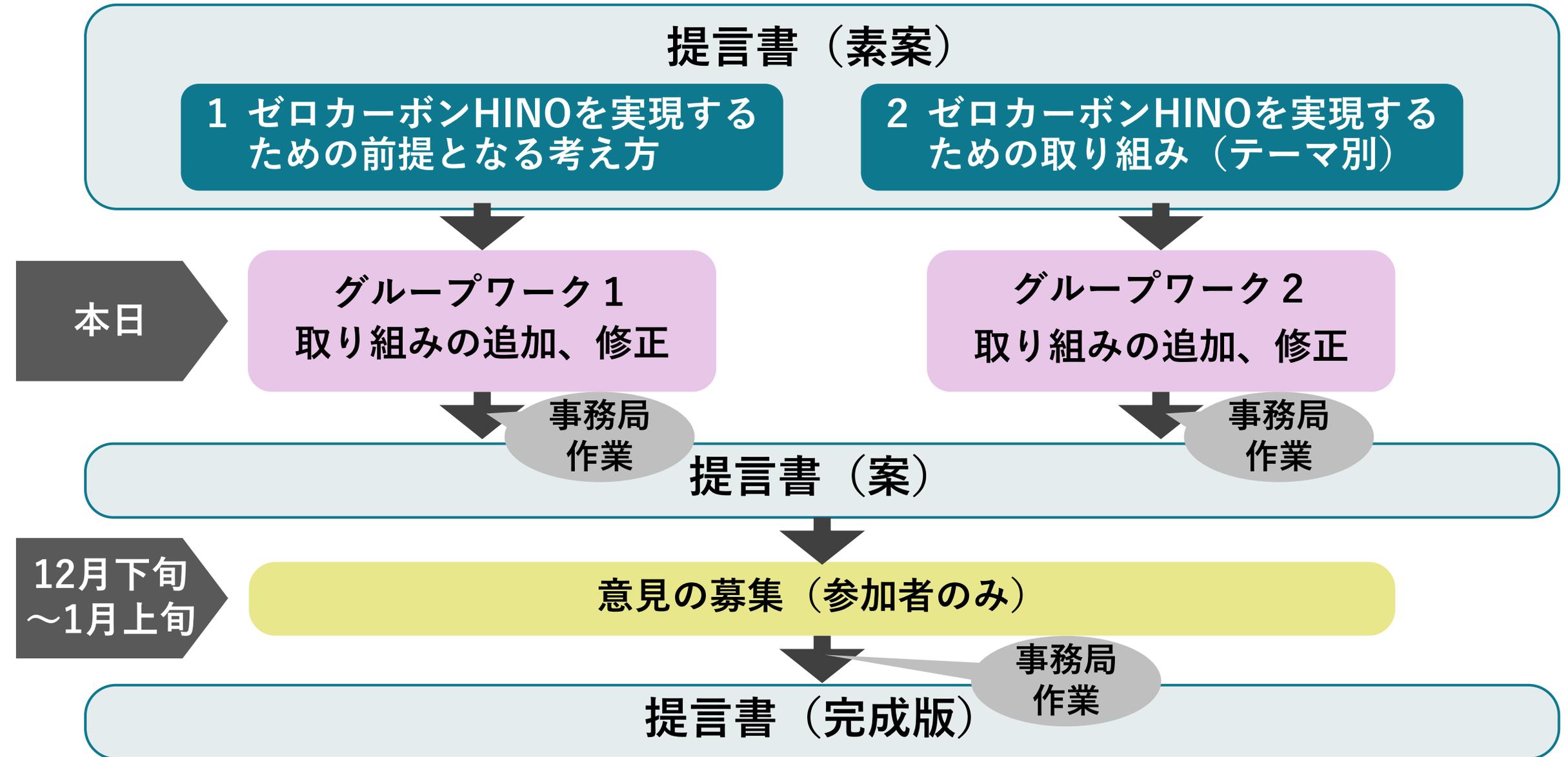
提言書（素案）の内容

2 ゼロカーボンHINOを実現するための取り組み（テーマ別）

その他の取り組み ⇒ 取り組み総数：9

提言37 二酸化炭素の吸収を進める

提言書完成までの流れ



情報提供

「カーボンニュートラルを急げ
気候転換点を超える前に」



プロフィール

東京都公立大学法人 理事長
東京大学名誉教授

1946年 茨城県水戸市生まれ
1969年 東京大学工学部卒業
1974年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）
1988年 東京大学先端科学技術センター教授
1992年 東京大学生産技術研究所教授
2010年 定年退職
2021年より現職

専門は、材料科学、エコデザイン学、環境経営学
著書に「未来を拓く～エシカル購入」、「宇宙船地球号のグランドデザイン」、
「実践 低炭素革命～持続可能な社会を創るために」、「気候危機」ほか。

スライド切り替え

グループワーク 1

ゼロカーボンH I N Oを
実現するための前提となる考え方

グループワークのルール

- ① 対話はキャッチボール。
短く話そう、よく聴こう！
- ② 途中で遮らない。最後まで聴こう！
- ③ 違って当然。違いこそ可能性！
- ④ 寄り道もOK！
でも、何の話し合いか忘れずに。



グループワーク 1 の構成

① 前半の文章の内容

下記の 3 項目の文章に対する追加、修正

- (1) 環境問題を教育や政治で取り上げる
- (2) 社会の「大転換」を起こす
- (3) 現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す

② 提言 1 の内容

提言 1 環境問題を社会に浸透させ、一丸となってこの問題に取り組む

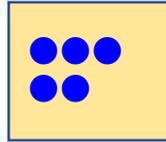
に関する市民、事業者、行政の取り組みの追加、修正

「①前半の文章の内容」のグループワークのイメージ

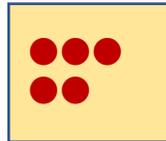
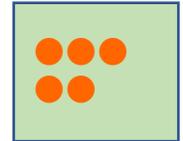
日野市気候市民会議 第5回 2023年12月10日

グループ名 ()

(1) 環境問題を教育や政治で取り上げる

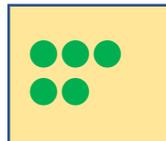


第1回の講義のなかで知った事実がたくさんあります。例えば、気候変動が進むと様々な分野に影響が及ぶこと、その影響には地域差があり原因に責任のない人たち（新興国・途上国などの人たち）が深刻な影響を受けること、現状の温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出削減ペースではまったく足りないことなどです。

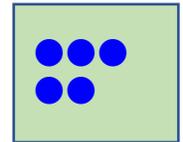


我々はこの会議に参加する前までは、このような事実を知らませんでした。そのため、行動に移すことも、声を上げることもできませんでした。このような事実を知らされていなかったこと、知る機会がなかったことに根本的な問題があると考えます。

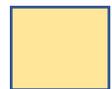
また、取り組まなければいけないことが分かっているのに、我々はなぜできない、なぜやらないのかという疑問があります。



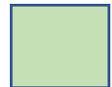
日本では、気候変動対策＝我慢しながら取り組むもの、と考える人が多いようですが、欧米では、気候変動対策＝生活の質を高めるもの、と考える人が多いそうです。アドバイザーからは、ヨーロッパの国々では、学校での教育以外に大人が参加して議論できる機会（気候市民会議など）がいろいろとあり、社会全体の意識の向上につながっている様子を聞きました。



これらのことから日本でも、すべての人が事実を知り、議論しあい、行動に移すために、教育や政治において、もっとこの問題を取り上げることが重要と考えます。



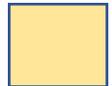
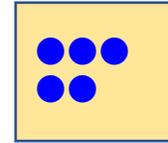
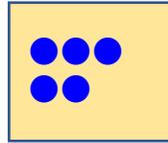
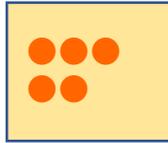
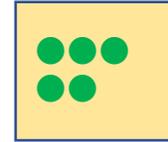
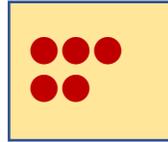
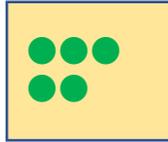
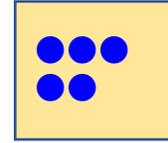
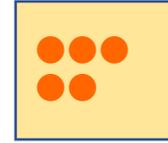
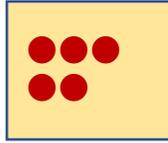
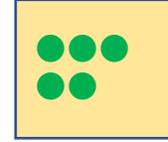
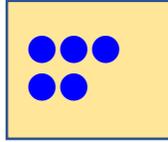
追加したい内容



修正したい内容

「①前半の文章の内容」のグループワークのイメージ

その他



追加したい内容

「①前半の文章の内容」のグループワークの進め方

1. 文章に「追加したい内容」、「修正したい内容」を、付箋に書きましょう【3～5分程度】
2. 用紙に付箋を貼りながらグループ内で共有し、意見交換しましょう【15～17分程度】

※下記の3項目あります。

- (1) 環境問題を教育や政治で取り上げる
- (2) 社会の「大転換」を起こす
- (3) 現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す

※どの項目にも当てはまらない「追加したい内容」は、「その他」の欄へ貼り付けてください。

※きれいにまとめる必要はありません！

終了時刻
14:23

「②提言 1 の内容」のグループワークの構成

〔取り組みの修正〕

投票の結果を踏まえ、修正又は削除が必要と思われる
取り組みの内容を検討

〔取り組みの追加〕

第2回～第4回で挙がらなかった追加の取り組みを検討

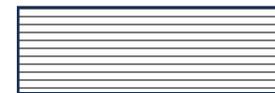
「②提言1の内容」のグループワークで使う用紙の読み方

投票の結果

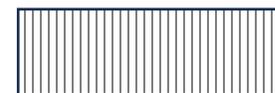
主体	役割（取り組み）	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%
	④ 環境問題の周知、啓発につながるCMについては、費用を安く設定する	45%	35%	3%	16%
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%

下記の取り組みにハッチ

- ・ 「提言書に残す」が60%未満
又は
- ・ 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上



逆になCO₂排出量が増える可能性がある



暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど

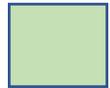
「②提言1の内容〔修正〕」のグループワークのイメージ

ハッチがついた 取り組み



下記のいずれか

- ・ 内容の修正
- ・ 留意点の追加
- ・ 取り組みごと削除

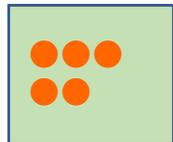
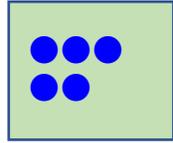
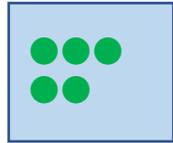


修正したい内容



追加したい留意点

主体	役割（取り組み）	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
市民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する	97%	0%	0%	3%
	② 環境問題について家庭内で子どもに教える	81%	10%	0%	10%
	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する	84%	10%	0%	6%
	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する	77%	16%	0%	6%
	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める	84%	13%	0%	3%
	⑥ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする	74%	10%	3%	13%
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%
	④ 環境問題の解決につながるCMについては、費用を安く認める	45%	35%	3%	16%
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%
	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する（助成金分は利益にせず、社会に還元する）	77%	16%	0%	6%
行政	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する	77%	6%	0%	16%
	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報等で紹介する	94%	0%	6%	0%
	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える	97%	3%	0%	0%
	④ 環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかける	84%	13%	3%	0%
	⑤ 環境問題を学校教育に取り入れる、行政や地域の大人も学校教育に参加する	87%	3%	0%	10%
	⑥ 子どもが環境問題を学ぶことができる施設をつくる	55%	23%	16%	6%
	⑦ 市民が環境問題を学ぶ場（イベント、講演会、セミナー、勉強会など）を増やす。市民や事業者にも企画や	94%	3%	0%	3%



(例)

行政⑮ 環境問題に対する市民、事業者の取り組みや研究開発を支援する（助成・減税を含む）
留意点：助成による取り組みの成果が社会に還元されるような制度設計とする（助成金分が単に事業者の利益にならないように）

「②提言 1 の内容〔修正〕」のグループワークの進め方

1. 提言 1 のハッチがついた取り組みについて「修正したい内容」、
「追加したい留意点」を、付箋に書きましょう【2分程度】
2. 用紙に付箋を貼りながらグループ内で共有し、意見交換しましょう
【6分程度】

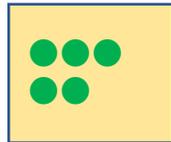
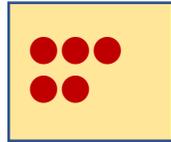
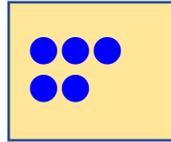
※意見交換の結果、取り組みごと削除したほうが良いという結論が出た場合は、取り組みに×印をつけてください。

※「修正したい内容」、「追加したい留意点」についてはきれいにまとめる必要はありません！

終了時刻
14:34

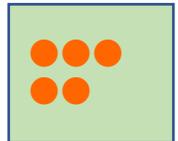
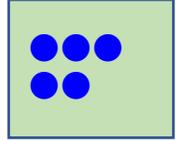
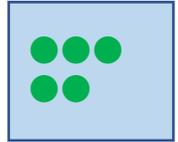
「②提言1の内容〔追加〕」のグループワークのイメージ

追加したい内容



追加したい内容

主体	役割（取り組み）	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
市民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する	97%	0%	0%	3%
	② 環境問題について家庭内で子どもに教える	81%	10%	0%	10%
	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する	84%	10%	0%	6%
	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する	77%	16%	0%	6%
	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める	84%	13%	0%	3%
	⑥ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする	74%	10%	3%	13%
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%
	④ 環境問題の認知啓発につながるCMについては、費用を安く認める	45%	35%	3%	16%
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%
	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する（助成金は利益にせず、社会に還元する）	77%	16%	0%	6%
行政	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する	77%	6%	0%	16%
	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報等で紹介する	94%	0%	6%	0%
	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える	97%	3%	0%	0%
	④ 環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかける	84%	13%	3%	0%
	⑤ 環境問題を学校教育に取り入れる、行政や地域の大人も学校教育に参加する	87%	3%	0%	10%
	⑥ <u>子どもが環境問題を学ぶことができる施設をつくる</u>	55%	23%	16%	6%
	⑦ 市民が環境問題を学ぶ場（イベント、講演会、セミナー、勉強会など）を増やす、市民や事業者にも企画や開催に協力してもらう	94%	3%	0%	3%
	⑧ 市民が環境問題を話し合う場（気候市民会議など）をさらに増やす、少数者、少数派の意見も取り入れる仕組みをつくる	84%	6%	3%	6%
	⑨ 事業者と行政が連携して環境問題に対して取り組む	87%	6%	3%	3%
	⑩ 市民と事業者、事業者と事業者をつないで環境問題に対して取り組む仕組みをつくる	81%	13%	0%	6%
	⑪ 環境に配慮することが得になる仕組みをつくる	87%	10%	0%	3%
	⑫ 環境問題に関して市民が分かりやすい基準をつくる、日野市独自の認証マークをつくる	81%	19%	0%	0%



「②提言 1 の内容〔追加〕」のグループワークの進め方

1. 提言 1 に「追加したい内容」を、付箋に書きましょう【2分程度】
2. 用紙に付箋を貼りながらグループ内で共有し、意見交換しましょう【8分程度】

※脱炭素化に向けて、社会の「大変革」を起こすための取り組みをひねり出しましょう！

※きれいにまとめる必要はありません！

終了時刻
14:50

休憩（14:58まで）

- ※お菓子をお配りします。
ご自由に召し上がりながらご歓談ください。

グループワーク 2

(テーマ別) 市民、事業者、行政の役割等

グループワーク 2 の分担

モノ-1グループ、モノ-2グループ

モノに関する取り組み ⇒ **取り組み総数：123**

生産と消費

提言 2 環境に配慮したモノを普及させる

提言 3 環境に配慮した食を普及させる

提言 4 モノの生産、消費を減らす

提言 5 地産地消を普及させる

販売方法

提言 6 環境に配慮した販売方法を普及させる

廃棄、再利用、資源循環

提言 7 モノの生産、消費を減らす（再掲）

提言 8 食品ロスを減らす

提言 9 リユース、リサイクルを進める

提言10 街なかのごみを減らす

（海洋プラスチックを減らす）

提言11 ゴミの収集、処理の過程で環境に配慮する

グループワーク 2 の分担

モビリティ-1グループ、モビリティ-2グループ

モビリティに関する取り組み ⇒ 取り組み総数：125

自家用車、社有車、公有車

提言12 自動車の台数を減らす、走行距離を減らす

提言13 環境に配慮した自動車を普及させる

提言14 環境に配慮した運転を普及させる

公共交通機関等

提言15 環境に配慮した公共交通機関を使いやすくする

(自家用車や飛行機に依存しない社会)

提言16 新しいタイプの相乗り型交通機関を普及させる

(高齢者も移動しやすい社会)

街づくり

提言17 自動車の流れをスムーズにする

提言18 遠くに出かけなくても生活できる魅力的な街をつくる

提言19 地域ごとの特性を踏まえながら、だれもが移動しやすい街をつくる

徒歩、自転車

提言20 徒歩、自転車での移動を増やす
(自家用車に依存しない社会)

物流

提言21 モノを運ぶ距離や量を減らす

提言22 地産地消を普及させる (再掲)

提言23 環境に配慮した方法でモノを運ぶ

その他の取り組み ⇒ 取り組み総数：9

提言37 二酸化炭素の吸収を進める

グループワーク 2 の分担

エネルギー-1グループ、エネルギー-2グループ

エネルギーに関する取り組み ⇒ 取り組み総数：107

市民の省エネ

- 提言24 断熱性の高い省エネ住宅を普及させる
- 提言25 省エネ家電、省エネグッズを普及させる
- 提言26 省エネ型ライフスタイルを普及させる

事業者の省エネ

- 提言27 省エネ機器を普及させる
- 提言28 省エネ型ビジネススタイルを普及させる

街の省エネ

- 提言29 エネルギー消費が少ない街をつくる
- 提言30 熱をため込まない街、気温が上がっても快適に過ごせる街をつくる

エネルギー転換

- 提言31 太陽光発電システムを普及させる
- 提言32 市内の再生可能エネルギーの利用を進める
- 提言33 市外の再生可能エネルギーの利用を進める
- 提言34 電力のピークカット、ピークシフトを進める
- 提言35 熱利用の脱炭素化を進める
- 提言36 未利用エネルギーを活用する、新エネルギーを開発する

グループワーク 2 で使う用紙の読み方

投票の結果

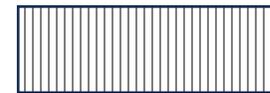
主体	役割（取り組み）	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%
	④ 環境問題の周知、啓発につながるCMについては、費用を安く設定する	45%	35%	3%	16%
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%

下記の取り組みにハッチ

- ・ 「提言書に残す」が60%未満
又は
- ・ 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上



逆にCO₂排出量が増える可能性がある



暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど



上記2つが同じ割合

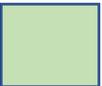
グループワーク 2 のイメージ

ハッチがついた 取り組み



下記のいずれか

- ・ 内容の修正
- ・ 留意点の追加
- ・ 取り組みごと削除

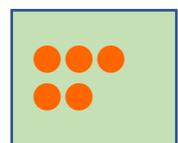
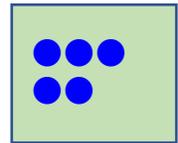
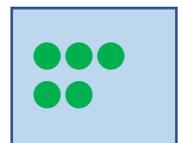


修正したい内容



追加したい留意点

主体	役割 (取り組み)	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
市民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する	97%	0%	0%	3%
	② 環境問題について家庭内で子どもに教える	81%	10%	0%	10%
	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する	84%	10%	0%	6%
	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する	77%	16%	0%	6%
	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める	84%	13%	0%	3%
	⑥ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする	74%	10%	3%	13%
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%
	④ 環境問題の周知・啓発につながるCMについては、費用を安く認める	45%	35%	3%	16%
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%
	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する (助成金分は利益にせず、社会に還元する)	77%	16%	0%	6%
行政	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する	77%	6%	0%	16%
	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報等で紹介する	94%	0%	6%	0%
	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える	97%	3%	0%	0%
	④ 環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかける	84%	13%	3%	0%
	⑤ 環境問題を学校教育に取り入れる、行政や地域の大人も学校教育に参加する	87%	3%	0%	10%
	⑥ 子どもが環境問題を学ぶことができる施設をつくる	55%	23%	16%	6%
	⑦ 市民が環境問題を学ぶ場 (イベント、講演会、セミナー、勉強会など)を増やす (市民や事業者にも企画や	94%	3%	0%	3%

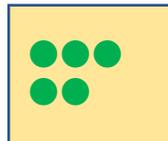
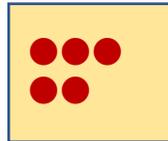
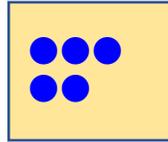


(例)

行政⑮ 環境問題に対する市民、事業者の取り組みや研究開発を支援する (助成・減税を含む)
留意点：助成による取り組みの成果が社会に還元されるような制度設計とする (助成金分が単に事業者の利益にならないように)

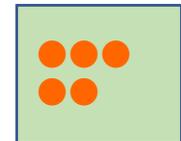
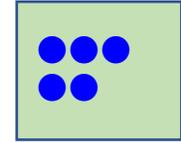
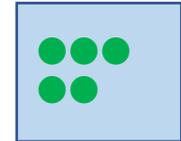
グループワーク 2 のイメージ

追加したい内容



追加したい内容

主体	役割 (取り組み)	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
市民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する	97%	0%	0%	3%
	② 環境問題について家庭内で子どもに教える	81%	10%	0%	10%
	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する	84%	10%	0%	6%
	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する	77%	16%	0%	6%
	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める	84%	13%	0%	3%
	⑥ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする	74%	10%	3%	13%
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%
	④ 環境問題の解決につながるCMについては、費用を安く認める	45%	35%	3%	16%
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%
	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する (助成金は利益にせず、社会に還元する)	77%	16%	0%	6%
行政	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する	77%	6%	0%	16%
	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報等で紹介する	94%	0%	6%	0%
	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える	97%	3%	0%	0%
	④ 環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかける	84%	13%	3%	0%
	⑤ 環境問題を学校教育に取り入れる、行政や地域の大人も学校教育に参加する	87%	3%	0%	10%
	⑥ <u>子どもが環境問題を学ぶことができる施設をつくる</u>	55%	23%	16%	6%
	⑦ 市民が環境問題を学ぶ場 (イベント、講演会、セミナー、勉強会など)を増やす、市民や事業者にも企画や開催に協力してもらう	94%	3%	0%	3%
	⑧ 市民が環境問題を話し合う場 (気候市民会議など)をさらに増やす、少数者、少数派の意見も取り入れる仕組みをつくる	84%	6%	3%	6%
	⑨ 事業者と行政が連携して環境問題に対して取り組む	87%	6%	3%	3%
	⑩ 市民と事業者、事業者と事業者をつないで環境問題に対して取り組む仕組みをつくる	81%	13%	0%	6%
	⑪ 環境に配慮することが得になる仕組みをつくる	87%	10%	0%	3%
	⑫ 環境問題に関して市民が分かりやすい基準をつくる、日野市独自の認証マークをつくる	81%	19%	0%	0%



グループワーク 2 の進め方

1. ○用紙のなかで、ハッチがついた取り組みについて「修正したい内容」、
「追加したい留意点」を、付箋に書きましょう
○その他、用紙に「追加したい内容」を、付箋に書きましょう
【2～4分程度】

6セット
繰り返す



2. 用紙に付箋を貼りながらグループ内で共有し、
意見交換しましょう【11～13分程度】

※意見交換の結果、取り組みごと削除したほうが良いという結論が出た場合は、取り組みに×印をつけてください。

※ 「修正したい内容」、「追加したい留意点」、 「追加したい内容」
についてはきれいにまとめる必要はありません！

※脱炭素化に向けて、社会の「大変革」を
起こすための取り組みをひねり出しましょう！

終了時刻
16:35

休憩（16:45まで）

※ご歓談ください。
疲れた方は合間にストレッチなどをしてみましょう！

参加者同士の感想の共有

参加者同士の感想の共有

1人1分程度で感想をお話しましょう。

- ✓ 全5回の会議に参加して感じたことは？
- ✓ 脱炭素化に向けて、日野市民としてどのように取り組んでいく？

終了時刻
16:55

今後の予定

スライド切り替え



日野市長による クロージングメッセージ

閉会、記念撮影

事務連絡

1. アンケート（回答は、会議終了後3日以内）

➤集計結果は、クラウドサービス等で報告

2. 名札は外してファシリテーターへ

3. 報酬のお渡し

➤この場でお渡しします。おかけになったまま、お待ちください。
引き換えに受領証に氏名をご記入ください。

4. 記念撮影

➤アンケートへの記入、報酬の受取が終わった方から順に、
貴重品を持って隣の「504会議室」へ移動をお願いします。

5. 記念撮影後のご歓談（希望者のみ）

➤記念撮影後、「505会議室」で自由にご歓談いただくことができます。